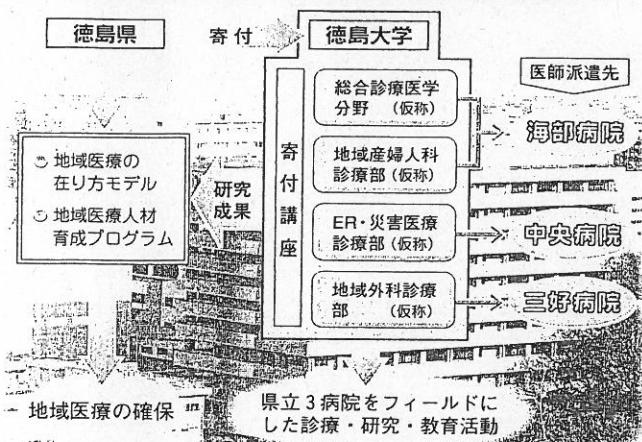


2010.1.1(金)

卷之三

地域医療再生で県・徳大連携

徳島大学「寄付講座」設置イメージ図



海部病院 産婦人科の診療拡充

寄付講座 教育や研究の充実、活性化を目指す
究機関に教員や研究個体がなど講座での
運営費を寄付し、希望するテーマを研究してもら
う講座。開設期間は通常2～5年。自治体からも
の機関や国立大学法人への寄付は原則として禁
だが、2002年の政令改正で、総務相の同意を
得れば可能になった。

▽総合診療医学分野▽地域産婦人科診療部▽地域外科診療部▽ER・災害医療診療部――の四つ(いずれも仮称)。県立3病院内に、徳島大の医師が診療や研究に当たる拠点を設ける。既に「地域医療研究センター」とある海部病院には、宿泊・研修機能を備えた施設新たに整備する。

総合診療医学分野は、07年10月から県の委託講習として運営されている

は、産婦人科の常勤医師ゼロとなり、07年9月から分娩室を休止している。現在は徳島大、阿波共栄兩病院の医師と徳島市内の開業医が週2回診療や妊娠健診を行っているが、平日すべての見込みが可能になる見込みで、診療部の開設が実現させる。

410年度から 分野開設 県立3病院を支援

不足している地域の医療確保を目的に、徳島県は徳島大学と連携し、2010～13年度の4年間、徳島大に産婦人科・外科など四つの「寄付講座」を開設する。県が講座の運営費を全額負担し、徳島大は海部（牟岐町）三好（三好市）中央（徳島

市)の県立・3病院へ新たに医師を派遣。各病院で診療支援をするとともに、地域医療に関する研究や人材育成を進めることとする。今後、県と地元へ本格的な協議を進め、早ければ4月の講座開設を目指す。

医師確保へ「寄付講座」

不足している地域の医師確保を目的に、徳島県は徳島大学と

市)の県立3病院へ新たに医師を派遣。各病院で診療支援をす

針。県医療政策課は「徳島大と連携して講座の開設準備を進め、短期、中期、長期的な医師確保や人材育成に取り組みたい」としている。

寄付講座の開設は、医師不足解消などを目的に県が作成した「地域医療再生計画」事業の一つ。